

「ひろしま」学びのサイクルの実現を目指して

-知識・技能を活用して思考し表現する力の育成
及び家庭での学習習慣の定着を図る取組を通して-

広島県教育委員会

はじめに

広島県では、新たな「教育県ひろしま」の創造に向け、児童生徒に確かな学力を身に付けさせるために教育の「中身づくり」に精力的に取り組む、教育改革を推進しているところである。

平成14年度から、小学校第5学年及び中学校第2学年を対象に、広島県独自の学力調査である「基礎・基本」定着状況調査を実施している。

こうした取組により、基礎的・基本的な学習内容は着実に定着してきている。しかし、県の学力調査の結果から、思考力・表現力に課題があること、また、全国学力・学習状況調査結果からは、B問題の正答率が低く、知識・技能を

活用する力に課題があることも明らかになった。

そこで、平成19年度広島県検証改善委員会を組織し、全国学力・学習状況調査結果の分析及びその分析に基づいた指導改善支援プラン『「ひろしま」学びのサイクル』を作成した。

『「ひろしま」学びのサイクル』とは、児童生徒に、知識・技能を活用して思考力・表現力を育成するための授業改善を行うとともに、授業で学んだことを家庭学習や自分の生活に生かしていくという学びのサイクルである。

平成19年度から、思考力・表現力を育成するための指導内容及び指導方法を開発し、報告書、リーフレットやDVDにまとめ、県内に普及を図っているところである。

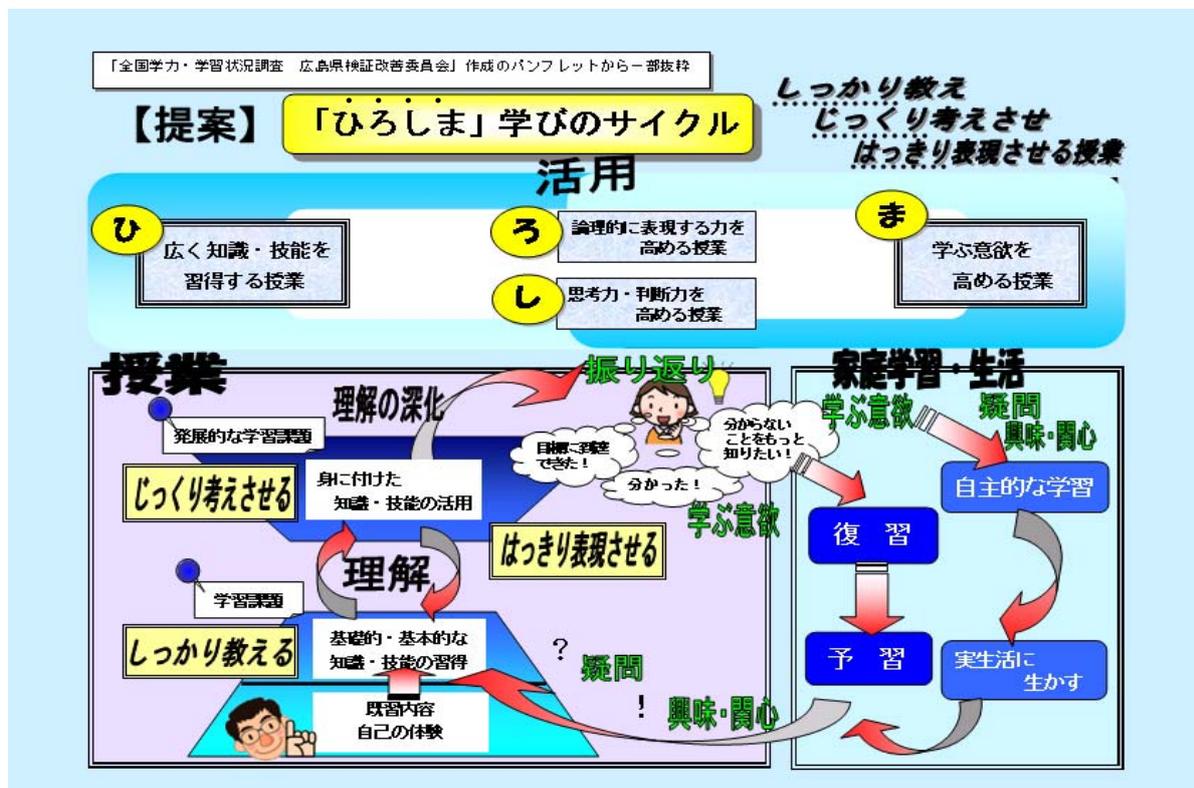


図1 「ひろしま」学びのサイクル

I. 広島県教育委員会における取組

1. 事業内容について

(1) 事業概要

平成21年度は、学力調査活用アクションプラン推進事業で指定した2地域(福山市小学校3校, 三原市小学校5校)において、授業改善のPDCAサイクルを確立するとともに課題である知識・技能を活用して思考し表現する力を育成することを目指し、指導の充実を図った。

また、「家庭学習の定着」を目指し、推進地域内で統一した取組の開発を行った。

平成22年度は、この学力調査活用アクションプラン推進事業の研究成果を生かし、継続した取組が行えるよう平成21年度の指定地域と同地域から、福山市小学校3校, 三原市小学校3校を選定した。

具体的には、次の2点に取り組み、児童の学力向上を図った。

① アクションプラン推進校で作成した教科(国語科・算数科)の指導事例及び平成19年度から作成してきた指導事例を実践するとともに、評価問題の結果分析からその改善を図った。また、これまでの学力調査の結果を総合的に分析し、新たに「知識・技能を活用して思考し表現する力」を育成する指導内容及び指導方法の開発に取り組んだ。

② 家庭での学習習慣の定着を目指し、推進地域で作成した「家庭学習の手引き」の効果的な活用方法及び指導法の研究を進め、授業と家庭学習のリンクを図った。特に、取組2年目の本年度は、昨年度作成した「家庭学習の手引き」を実際に活用し、その効果の検証を行い、手引きの内容及び活用方法について改善を図った。

そのため、県が行う「アクションプラン推進協議会」において、アクションプランの策定、2地域の進捗状況の把握と取組に対しての指導・助言を行うとともに、2地域の「アクションプラン地域推進会議」への出席及び推進校への学校訪問を行い、推進地域及び推進校の進捗状況の把握や、取組に対しての指導・助言を行った。

さらに、アクションプラン推進校での実践については、国及び県の指定事業の取組等を普及するために県が実施する「学力向上のための実践交流会」における発表、ホームページの掲載等を通して、県内全体への普及を図った。

(2) 実施体制

図2に実施体制及び役割分担を、図3に研究推進スケジュールを示す。

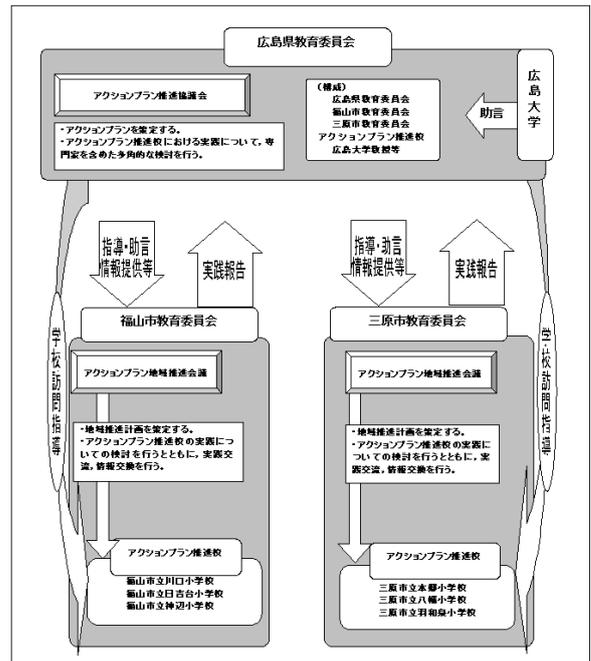


図2 実施体制及び役割分担

実施時期	計画事項		備考
	①本調査研究で実施する取組	②本調査研究外で実施する取組	
4月	ねらい 1 本事業の理解(特に目的、取組内容) 2 研究計画についての協議		全県統一・学習者負担
5月	対象 1 福山市・三原市教育委員会担当者 2 東部教育事務所担当者		
6月	福山市・三原市への説明及び協議 1事業説明 2プラン説明 3協議		全県統一・学習者負担
7月	第1回アクションプラン推進協議会 (福山市立日吉台小学校) ※9月で検討 (実態交流・研究協議)	学校訪問 各地域1回	全県統一・学習者負担 推進校負担
8月	ねらい 1 実践交流・研究協議 ① 指導事例の実践 ② 家庭学習の手引きの活用 ③ 検証問題	アクションプラン推進校訪問指導 (7月～12月)	全県統一・学習者負担 推進校負担
9月	対象 福山市・三原市の教育委員会担当者及び推進校各3校の校長及び研究担当者		
10月	第2回アクションプラン推進協議会 (三原市) ※10月開催も検討 (実態交流・研究協議)		
11月	※2・3学期における公開研究会の実施 (要 各市教委との相談)		全県統一・学習者負担 推進校負担
12月	結果物・報告書完成・提出	ねらい 1 実践交流・研究協議 ① 指導事例の実践 ② 家庭学習の手引きの活用 ③ 「評価問題集」「新・家庭学習の手引き」と「その活用ガイド」の検討	全県統一・学習者負担 推進校負担
1月	学力向上のための実践交流会 アクションプラン推進校の実践発表		
2月		④ リフレットの検討 ⑤ 報告書についての確認	HP作成
3月	文部科学省における成果報告会	対象 前回と同じ	

図3 推進スケジュール

(3) 研究成果

ア 総論

知識・技能を活用して思考し表現する力及び家庭での学習習慣の定着を図るため、アクションプラン推進校（福山市小学校3校、三原市小学校3校）の実践によって、次の3点の成果があった。

- アクションプラン推進校においては、指導改善支援プラン『『ひろしま』学びのサイクル』に基づく授業実践を行い、授業改善を図ることができた。（各アクションプラン推進校に対して、県教育委員会より指導主事を派遣し、指導を行っている。）また、アクションプラン推進校は、学力調査の結果分析に基づく指導改善事例及び評価問題を作成し、授業改善につなげることができた。
- アクションプラン推進協議会及びアクションプラン地域推進会議において、アクションプラン推進校の授業研究や研究経過報告等の実践に基づく協議を行い、推進地域間、推進校間の研究交流を進めたことで、それぞれの取組を充実させることができた。また、アクションプラン地域推進会議で、家庭での学習習慣の定着を図るための「家庭学習の手引き」を作成することができた。
- アクションプラン推進校において実践された学力調査の結果分析に基づいた指導実践例や家庭での学習習慣の定着に向けての実践を研究発表会等で、県内に普及することができた。

イ 具体的な取組内容について

【アクションプラン推進協議会】

2回のアクションプラン推進協議会を開催し、アクションプラン地域推進会議及び推進校へ訪問指導を行い、次の2点の成果があった。1点目は、アクションプラン推進協議会の会場校において、「全国学力・学習状況調査結果の分析に基づいた指導改善例」を授業実践し、研究協議することを通して、知識・技能を活用して思考し表現する力の育成を目指した授業づくりをより具体化させることができた。2点目は、各アクションプラン地域推進会議の進捗状況を把握し、それに対応した指導をすることで、各推進地域、推進校の取組を推進さ

せることができた。

【アクションプラン地域推進会議】

市教育委員会がアクションプラン地域推進会議を開催し、アクションプラン推進校へ計画的な指導を行い、次の2点の成果があった。1点目は、アクションプラン推進校の進捗状況を把握し、指導することで、推進地域で共通した取組を進めることができた。



図4 評価問題集（福山市教育委員会）

2点目は、家庭での学習習慣の定着を図るための「家庭学習の手引き」をそれぞれの推進地域の特色を生かしながら有効活用することにより、家庭学習の充実が図られた。

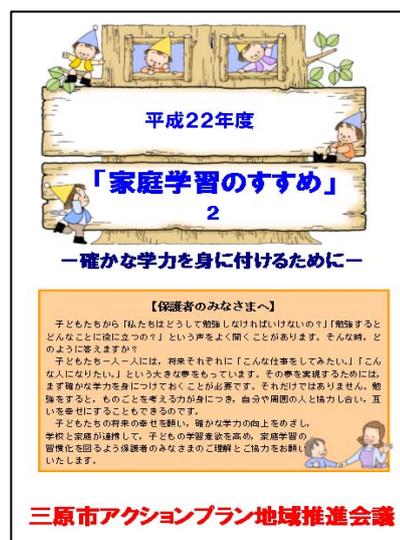


図5 家庭学習のすすめ（三原市教育委員会）

【アクションプラン推進校】

学力調査等の分析に基づいた指導改善に組織として取り組むことにより、アクションプラン推進校において、国語または算数の指導事例を作成・授業実践を行い、その成果を評価問題やアンケートを通して整理することができた。

ウ 実践事例の評価、成果の普及に関する取組について

- 知識・技能を活用して思考し表現する力の育成に関して、有効な指導内容及び指導方法の開発

アクションプラン推進校においては、各校の学力調査の結果を分析し、課題を明確にし、研究テーマに基づいた授業実践を行い、それを指導事例（国語科・算数科）としてまとめた。児童に対して実施した評価問題の結果では、指導前と比較して伸びが見られた。また、単元テスト、読解力テスト、ノートの記述等の結果から児童の思考力・表現力の伸びが見られた。

- 家庭における学習習慣の定着

三原市においては、アクションプラン推進校で統一した「家庭学習のすすめ」を作成し、家庭学習の定着を図った。福山市においても、アクションプラン推進校が中学校との連携を視野に入れた「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習の定着に向け指導の充実を図った。

その結果、家庭学習・自主学習（予習・復習）をする児童が増加したり、家庭との連携が深まったり、小中の連携が進んだ。

2. 普及啓発と今後の取組について

(1) 成果の普及啓発に関する取組

ア 学力向上のための実践交流会

平成23年1月8日、広島大学において、県内教員及び教育関係者等約1,000名が参加する実践交流会を開催し、福山市アクションプラン推進校3校及び三原市アクションプラン推進校3校の実践発表を行い、研究成果の普及を図った。

<参考URL>

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/kyouiku/hotline/05junior/1st/22jissenkouryuu kai/H22gaku.htm>

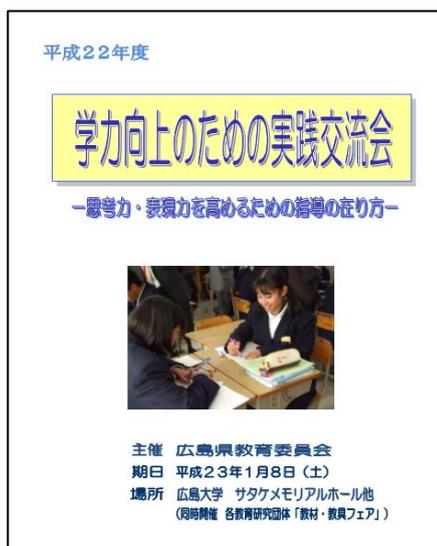


図6 学力向上のための実践交流会 資料表紙

イ 広島県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」への掲載

本事業の実践内容の詳細については、広島県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」に掲載し、全県へその実践の普及を図る。

ウ 「基礎・基本」定着状況調査報告書への掲載

広島県の学力調査である「基礎・基本」定着状況調査の報告書には、各学校が指導改善の参考となるよう、平成21年度調査で課題のあった設問の通過率（正答率）が上昇した学校の指導事例や、組織的な研究推進により成果を上げた学校の取組を掲載している。

特色のある学校の取組の事例として、三原市アクションプラン推進地域の取組を掲載している。

なお、この報告書は、各学校において子どもの実態に合わせて指導内容・方法を一層工夫し、授業改善を推進してもらうために全公立小・中学校に配布している。

<参考URL>

http://www.pref.hiroshima.lg.jp/kyouiku/hotline/05junior/1st/h22kiso_houkoku/22index.htm

(2) 来年度以降の取組

平成23年度以降は、この学力調査活用アク

シヨンプラン推進事業の研究成果を生かし、図1に示す指導改善支援プラン(「ひろしま」学びのサイクル)に基づき、さらに取組を推進する。

具体的には、児童生徒に、思考力・表現力を育成するための授業改善を行うとともに、授業で学んだことを家庭学習や自分の生活に生かすという学びのサイクルによって、次の2点の効果的な手立てを明らかにして、全県に普及する。

- ① 思考力等を育成するための言語活動の充実を通じた指導改善の方法及び内容の研究
- ② 学習習慣の定着を目指した効果的な指導方法及び内容の研究

Ⅱ. 推進校における取組事例

取組事例①

「思考力・表現力を育成するための授業改善」 福山市立川口小学校

(1) 学校の状況について

本校は、広島県の東部に位置し、全校児童623名、21学級の学校である。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

ア 調査結果の分析及び課題

＜国語 B 問題 4 について＞

【誤答分析】

- ・目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由や根拠を明確にして読んだり、話したりすることができていない。

【課題となる力】

- ・目的や意図に応じて、情報や文章を比べて読みながら、必要な事柄を選択する力
- ・書かれている内容について自分の考えを明確にしながらかくむ力

【指導上の課題】

- ・複数の文章を比べながら読ませ、必要な事柄を選択させる指導に課題がある。
- ・根拠となる言葉から考えさせる指導に課題がある。

【指導改善のポイント】

- ・複数の文章を分類・整理しながら比べて読み、共通点や相違点を見つけさせる。
- ・目的や意図に応じて、本や文章を選んで読ませる。

【指導方法の工夫】

- ・二つの作品を観点に沿って比べて読み、似ているところや違うところを見つけさせる。
- ・叙述を抜き出し、根拠となる表現やそれに対する自分の思いを書かせたり、発表させたりする。

イ 学年 第4学年

ウ 単元の紹介

① 単元名

本と友達になろう（比べ読み）
「白いぼうし」と「たぬき先生はじょうずです」

② 単元の目標

国語への関心・意欲・態度	・シリーズの作品を中心に、いろいろな読み物に興味をもち、読もうとしている。
書く能力	・知らせたいことの中心を明確にしながら書くことができる。 ・作品を紹介するために必要な事柄を選択して、紹介文を書くことができる。
読む能力	・情景や登場人物の様子を、叙述を基に場面を比べて読み、自分の感想をもつことができる。 ・目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むことができる。
言語についての知識・理解・技能	・正しい表記で文章を書くことができる。

③ 単元の展開（指導計画）

- 一次 「白いぼうし」を場面の様子や登場人物の気持ちの変化を想像しながら読む。
二次 比べ読み教材「たぬき先生はじょうずです」を場面の様子や登場人物の気持ちを考えながら読む。
三次 「白いぼうし」と「たぬき先生はじょうずです」の比べ読みをする。
四次 おすすめの本の紹介文を書き、紹介し合う。
五次 学習のまとめをする。



授業の様子及び掲示物

エ 授業の様子

二つの作品の比べ読みをする場面

二つの作品を人物像、表現などの観点で比べ読みをすることにより、似ているところや違うところを見つけることができた。

T：二つの作品を比べて、似ていることはありませんか。

C：両方とも主人公の松井さんは、とてもやさしくて、いい人だと思います。

C：運転手の松井さんは、お客さんのために夏みかんを置いたり、歯が痛いぼうやのことを心配したりして、いつもお客さんのことを思って親切にしているところが似ています。

C：話の中で、ふしぎなところがあることが似ています。「白いぼうし」は、ちょうが女の子に化けていたし、「たぬき先生はじょうずです」は、男の子たちが寝ている間に、たぬきになっていたからです。

C：二つの作品を比べて、いろんな色が出てくるとも似ていると思います。

C：「白いぼうし」は六月の初めのお話で、レモンとか白とか水色とか夏らしい感じがしたけど、「たぬき先生はじょうずです」は十二月のお話で、こげ茶色のぼうしとか、雪の白とか冬のイメージがします。

(3) 成果について

単元終了後の評価テストの結果は以下のとおりである。

問題	評価規準	通過率 (正答率) (%)
評価問題	条件に応じた文章を抜き出し、根拠となる表現から自分の考えをかくことができる。	100
単元末テスト	場面の様子を思いうかべながら、人物の気持ちや人柄を読み取ることができる。	98
実力テスト	必要な情報を関係付けて読み、理由や根拠を明確にして読むことができる。	93

- 登場人物の気持ちや人柄が分かる叙述を抜きだし、それに対する自分の思いを書かせたり、話させたりすることにより深く読み取ることができた。
- 二つの作品の比べ読みを通して、登場人物の人柄や表現について、共通点や相違点を見付けることができた。
- 家庭学習で、読書を継続的に取り組んだ。今回は、あまんきみこの作品を進んで読み、多くのファンタジックな作品に親しむことができた。単元の最後には、自分のおすすめの本を紹介し合い、読書意欲を高めることができた。

(4) 来年度以降の課題について

- 課題
目的条件に応じて、作品全体の中から必要な文章や情報を抜き出すことができるよう、指導の工夫が必要である。
- 改善点
児童に作品全体を通して読む必然性をもたせる場の設定をする。(「一番好きのところは? 二番目に好きのところは?」と問う等)

取組事例②

「家庭における学習習慣の定着を図る取組」

三原市立羽和泉小学校
三原市立八幡小学校

(1) 学校の状況について

- 二校は、広島県の南東部に位置している。
- ・羽和泉小学校 全校児童60名、7学級
 - ・八幡小学校 全校児童25名、4学級

(2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

ア 調査結果の分析及び課題

<算数B問題 ⑥ (2) について>

説明をするとき、求められている式・2つのことを比較することば・算数的用語を使って関係を説明することばの3つの条件を満たすことができていない。

「類型3」にあたる解答が多い傾向にあった。これは、説明に必要な3つの条件のうち

2つか1つしか示していない解答である。「78.5cm」が求められなかったり、求めても「100cm」との比較がない説明があったり、角度に言及できていない説明、式の数値が不十分である説明(自分で暗算してしまったもの)などの解答が多かった。

式の根拠や対象を明らかにし、図や表と関連付けて、説明する力の育成が必要である。

イ 授業と家庭学習の連動を図る工夫 【三原市立羽和泉小学校】

- 授業と連動した復習問題の設定
定着させる問題、説明する問題等を授業で出題する。授業の評価問題を家庭学習でも取り組ませる。
付けたい力を明確にして指導計画に家庭学習で何をするかを明記する。
既習内容(問題解決の方法・単元での学習に必要な知識・理解、技能)を単元に入る前に家庭学習とする。

計算練習・算数的用語を習得させるだけでなく、解決の方法も想起させる。また、ことばで説明させる。

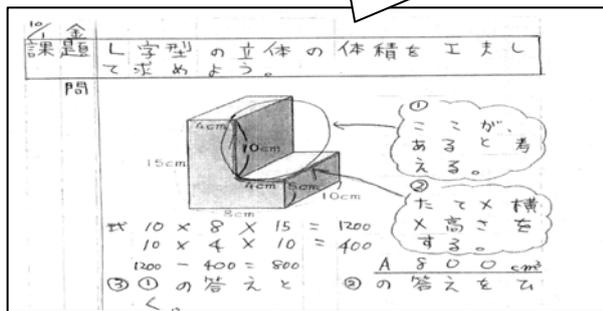
家庭学習 (復習問題)	指導計画					
	学習活 動	聞	考	表	知	評価規準
求大の問題をテープ図をもとにして解き説明する問題、加法・減法2桁計算問題						
2段のテープ図をもとにして解き説明する問題・問題づくり 加法・減法2桁計算問題	求大の逆思考の問題		◎		○	・2段のテープについて理解している。 ・2つの数量の違いに着目し、一方が多いということは、他方が差の分だけ少ないと考えている。
問題場面を2段のテープ図・言葉・式で表し、解き説明する問題・問題づくり、 加法・減法2桁計算問題	求小の逆思考の問題		◎		○	・数量の関係を2段のテープに表すことができる。 ・2つの数量の違いに着目し、一方が少ないということは、他方が差の分だけ多いと考えている。
求大の逆思考の問題、求小の逆思考の問題をテープ図を使って解き説明する問題 加法・減法2桁計算問題	まとめ	○	◎	○	○	・求大の逆思考の問題、求小の逆思考の問題をテープ図を使って解き説明している。 ・問題をつくっている。

算数科第2学年「ちがいをみて」(指導計画)

【三原市立八幡小学校】

- 説明する授業を基に、家庭学習でも「説明する」ための課題に取り組ませる。
- 授業ノートを活用する。

ことば・式・図を関連させて説明させる。



授業ノート

根拠をもって・論理的に(順番)・方法(図・表・グラフ・式)を用いて説明し操作と説明を結び付ける。

説明の仕方

説明の仕方を提示し、家庭学習においても問題解決をする時には、必ず『根拠・論理的に(順番)・方法(図・表・グラフ・式)(操作と説明を結び付ける)』を入れてノートにかかせる。

○ 評価問題の活用 → 評価問題を家庭学習に位置付ける。

できなかった問題は、3度繰り返し学習する。

○ 振り返り表の取組

家庭学習の計画を立てるとともに、自分が行った家庭学習について振り返りを行わせる。

- ・家庭学習・読書などの時間を記入する。
- ・テレビ・ゲームの時間を記入する。
- ・家庭学習の内容を記入する。
- ・保護者懇談会にて保護者にも協力を求める。
- ・休日の家庭学習の時間を確保する。

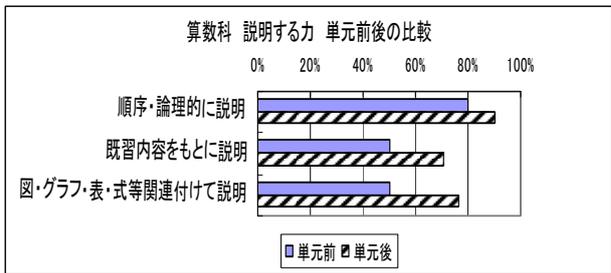
わくわくゴールデンウィークふりかえり					
	4月29日(木)	4月30日(金)	5月1日(土)	5月2日(日)	5月3日(日)
家庭学習	62分	60分	67分	70分	61分
読書	15分	30分	30分	40分	30分
テレビ、ゲームなど	120分	100分	120分	120分	120分
ふりかえり	読書をもっとふやした方がいい。	テレビ・ゲームなどが少なかった。	家庭学習が増えたよかった。	家庭学習、読書が増えたよかった。	テレビ・ゲームの時間を減らさないと。
お家の人から	本読みをもう少し増やしてほしい。	日記を書いてほしい。	テレビの時間を考えながら見てほしい。	しかりと勉強してほしい。	毎日、所定決めて読んでいるよ。

○毎日、記録して、5月6日に担任の先生に出しましょう。

振り返り表

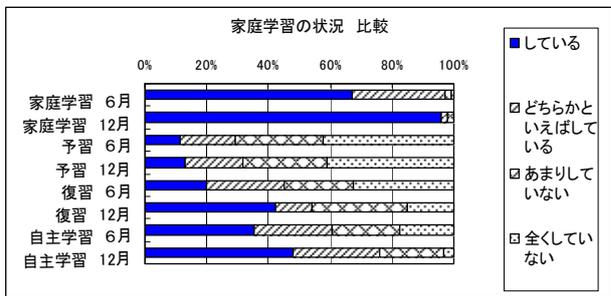
(3) 成果について

○ 資料を活用した根拠のある説明をする力が向上してきた。



算数科(説明する力)単元前後の比較

○ 家庭学習習慣・読書習慣が向上してきた。



家庭学習に関するアンケート 6月と12月の比較

(4) 来年度以降の課題について

○ 課題

- ・集団解決の場でのめあて意識(焦点化・明確化)が不足していた。
- ・予習、自主学習が充実していない。

○ 改善点

- ・集団解決を重視する。(何をどのように話し合うか明確にする。)
- ・「家庭学習の手引き」を活用するとともに、授業へのさらなる連動を行う。